（一財）
群馬県バスケットボール協会
U12部会

U12大会開催ガイドライン

2021年9月22日

U12大会開催ガイドライン

（1）選手・スタッフ・大会関係者・役員等の入場者

①原則無観客試合とする（チーム関係者は観客に含めない）
②1チームは選手15名以内＋保護者5～10名以内（指導者、マネージャー、帯同審判員などは含まない　保護者の数は大会ごとに規定する）とし、これらチーム関係者、大会役員、審判員、メディア以外の大会参加は当面認めない
③使用する大会会場（学校・公共施設など）の入館ルールを遵守すること（施設独自の健康チェックシート提出や入館人数制限、利用後の消毒方法など規定に従うこと）
④チーム指導者は、健康チェックシートにて参加選手全員の保護者承認を確認すること

⑤参加チーム及び審判チームの感染対策責任者は健康チェックシートにて参加者全員の健康状態を確認し、大会主催の感染対策責任者に健康状態を報告すること（大会役員は大会関係者用健康チェックシートを主催者の感染対策責任者に提出）

⑥会場入場時は必ず手指消毒をし、非接触型体温計での体温測定を行う

⑦体温が37.5度以上あった場合は入館せず帰宅すること

⑧運動中以外はマスク（不織布）を着用すること

⑨運動中にマスクを装着する場合は「布・ウレタン」を推奨

⑩体育館内での食事は原則禁止

⑪食事の必要がある場合は屋外で行い、同じ方向を向いて、マスクを外して会話をしないで15分以内で食事をすること（雨天や寒い場合などの時は車内でも可）

（2）会場設営及び試合運営

①大会主催の感染対策責任者は施設管理者と協議の上、チェックリストに基づき感染対策を講じること
②可能なら体育館の入口と出口を分ける
③入口に消毒スプレーを配置する
④入り口で健康チェックシートの回収や検温などの作業に従事する場合、マスク、フェイスシールド、手袋を着用
⑤トイレ及び手洗い場には「手洗いは30秒以上」の掲示をする
⑥開閉可能な窓は極力開けておく
⑦カーテンも開けておくことが望ましいがプレーの妨げにならないよう配慮する
⑧カーテンを閉じた場合にも各試合間には開けて換気をすることが望ましい

⑨試合終了毎にベンチ及びスコアラーズテーブルの消毒、フロア清掃を行う
⑩試合終了後はすぐにチーム関係者（選手及び保護者）は退館すること
⑪前チームが退場した後に次チームが入場する
⑫ターンオーバー制（午前と午後で入替え）を採用する場合、午前と午後の間隔は30分以上空け、会場内の換気を行うこと
⑬ターンオーバー制を採用しない場合、チームの入れ替え、食事に留意する
⑭審判は原則ホイッスルカバーを着用すること
⑮TOなどオンコートのスタッフは、フェイスシールドの着用が望ましい

（3）その他の感染症対策

①48時間ルール・・・大会2日前からは対外試合を避ける（濃厚接触者を出さないため）

②更衣

女子は更衣室が密にならないように配慮（保護者が管理）

男子は更衣室以外で行う際には間隔を空けて行う

③健康チェックシートの保管

大会に参加した選手（保護者）、役員のチェックシートは大会主催の感染対策責任者が、審判員のものは審判チームの感染対策責任者がそれぞれ大会後3ヶ月間保管する

④ワクチン接種

接種を推奨するが強制ではない（差別や誹謗中傷に留意）

副反応による発熱やコンディション低下を防ぐため、大会参加の1週間前には接種しないことを推奨

⑤緊急連絡体制

・ 選手（保護者）→保護者会長→（各チームの）感染対策責任者→（大会主催者の）感染対策責任者→U12部会長→県協会

・ 審判→（審判チームの）感染対策責任者→U12審判長及び（大会主催者の）感染対策責任者→U12部会長→県協会

・ 役員→（大会主催者の）感染対策責任者→U12部会長→県協会

⑥ハイリスクグループのリスク軽減

高齢及び基礎疾患のある指導者に対しては、参加見合わせ及び負担軽減（感染対策責任者や審判の免除など）を推奨

※『JBAバスケットボール活動再開に向けたガイドライン』を遵守すること
※厚労省、文科省、教育委員会、市町村、保健所、県協会など関係各所の最新の指示に従うこと
※利用施設の使用規則に必ず従うこと

差別や偏見の撲滅

①新型コロナウイルスは誰でも感染する可能性があります
　感染することは悪ではありません
②感染した本人・家族に大きなこころの傷を残すことがあります
　自殺や転居というてん末をたどるケースがあります
③ウイルスを正しく恐れましょう
　ウイルス排出量が多く、他人への感染リスクが高いのは、発症２日前から症状消失後３日間とされています
④感染してもバスケットボールは続けられます
　一定期間の隔離療養（入院など）の終了後は１～２週間程度の個別トレーニングを行い、さらに１週間から１０日をかけて段階的に対人接触のない練習からゲーム形式の練習までステップアップしていくことができます

（一財）群馬県バスケットボール協会
感染防止委員会

Q&A

Q1	感染対策をしていると言われても信用できない。
A1	現時点でできる感染対策は可能な限り行いますが、残念ながら感染を１００％防ぐことはできません。特に感染リスクの高い基礎疾患（喫煙・心疾患・糖尿病など）を有する方や高齢者の方の場合には、参加見合わせも検討ください。参加は自由意志となります。
Q2	感染が怖いので大会に参加したくないが、言い出せない雰囲気がチームにある。
A2	今年度は多くの大会で８人出場で試合成立となる見込みです。練習も含めバスケット活動への参加は個人の自由な意思が尊重されます。決して無理をしないでください。
Q3	感染者になったら、間違いなくイジメの対象になる。
A3	新型コロナウイルスはどなたでも感染する可能性があります。群馬県バスケットボール協会でも差別・偏見の撲滅を宣言し、啓蒙活動を進めています。悩みごとは一人で抱えずに、相談窓口や公的機関などに遠慮なくご相談ください（撲滅宣言に連絡先を掲載）。
Q4	新型コロナウイルスに感染したら、友達と遊べないのではないか。
A4	ウイルスを正しく恐れてください。保健所の指示により一定期間療養となりますが、その後は段階的に通常の生活が可能となります。小中高生の重症者報告はありません。
Q5	新型コロナウイルスに感染したら、バスケットボールはもうできないのではないか。
A5	バスケットは続けられます。隔離療養の終了後は１～２週間程度の個別トレーニングを行い、さらに段階的に対人接触のない練習からステップアップしていくことが可能です。
Q6	大会前にチーム内に感染者が出たが、その後保健所の指導およびJBAガイドラインに従い大会にエントリーした。試合の当日に対戦相手が対戦を拒否した。
A6	群馬県バスケットボール協会では不当な誹謗中傷や差別・偏見などの撲滅を推進しています。このチームの場合、医科学的に感染拡大の恐れは認められないと考えられ、没収試合として次の対戦に進むことが認められます。ただし大会前に取り決めを。